

リスクマネジメント・コンプライアンスの推進

原子力機構では、コンプライアンスリスクをはじめとするさまざまなリスクの低減及び顕在化防止に向けたリスクマネジメント活動を推進しています。各組織のリスクマネジメント活動のモニタリングや、全役職員を対象にした「リスク・コンプライアンス通信」の配信、研修等による各部署での意識啓発により、公的な原子力研究開発機関として、社会からの信頼に一層応えていきます。

原子力機構では、年度ごとに階層別・テーマ別のコンプライアンス研修を行っています。2018年度においては、新入職員採用時研修及び管理職昇任者研修(各1回実施、合計202名参加)、組織連携研修等(全拠点合計12回実施、合計675名参加)を利用し、コンプライアンスの再認識と定着を図りました。

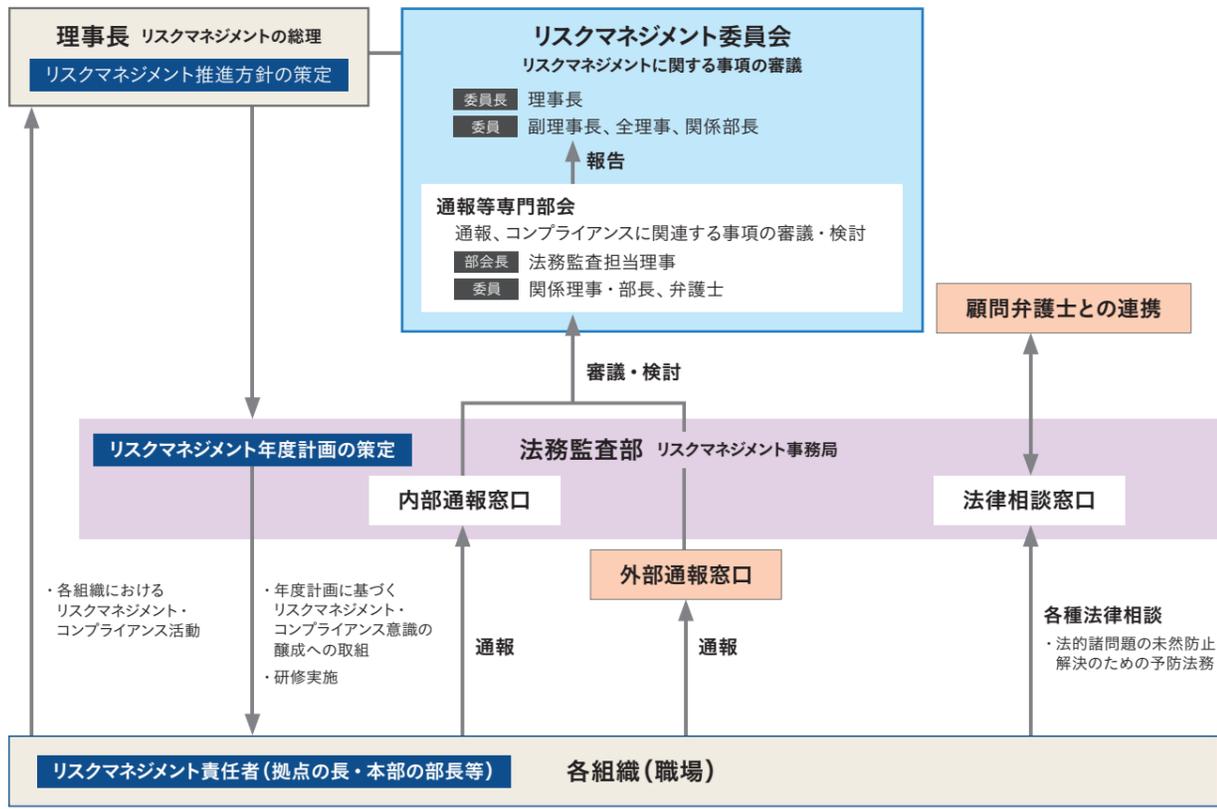
また、国立研究開発法人協議会コンプライアンス専門部会の活動に参加し、コンプライアンス意識の啓発を図りました。



組織連携研修
(敦賀事業本部におけるコンプライアンス研修会)



「コンプライアンス推進週間」ポスター
(国立研究開発法人協議会における統一活動)



※ コンプライアンスの推進に関する詳細は原子力機構ホームページを御覧ください。
https://www.jaea.go.jp/about_JAEA/compliance/

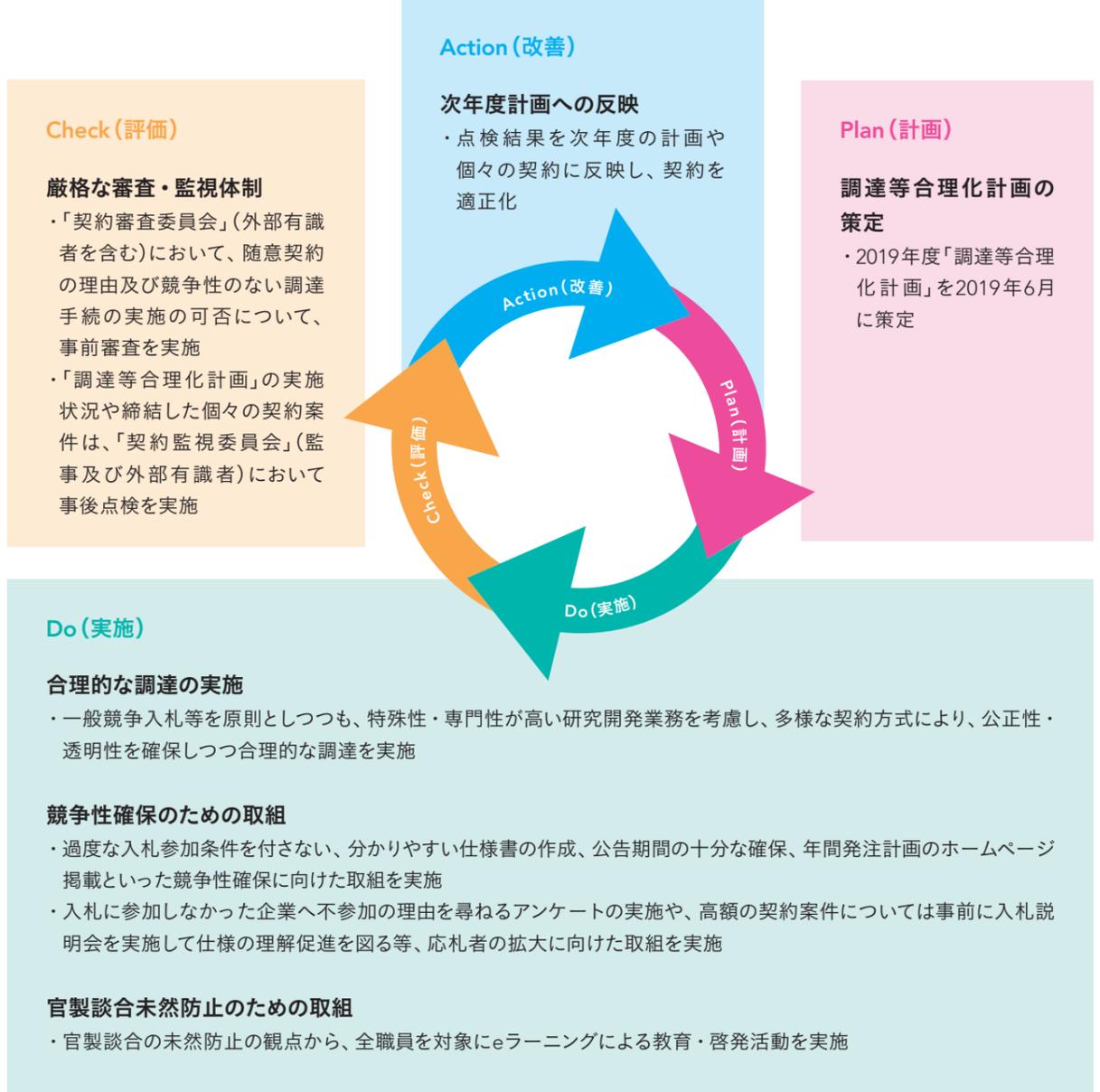
適正な契約(公正性、透明性、合理性を目指して)

原子力機構は、毎年度「調達等合理化計画」を策定し、PDCAサイクル(計画→実施→評価→改善)により、公正性・透明性を確保しつつ、自立的かつ継続的に調達等の合理化に取り組んでいます。

また、環境保全の観点から環境物品等(グリーン購入法適合物品等)の調達の推進や障がい者就労施設等からの優先調達にも取り組んでいます。

グリーン購入法に関する調達については、物品・役務で特定調達品目の99%調達を達成しました。このほか公共工事の調達は12品目でした。

原子力機構における契約のPDCAサイクル



※ 調達等合理化計画の詳細は原子力機構ホームページを御覧ください。
https://www.jaea.go.jp/for_company/supply/contract/

原子力機構は、研究開発成果の発信や施設の安全に関する情報等を積極的に公開し、透明性を確保するとともに、対話活動等を通じた相互理解の促進に取り組み、地域及び社会からの信頼確保に努めています。

積極的な情報の提供・公開と透明性の確保

原子力機構の幅広い研究開発成果については、報道発表等を通じて、タイムリーに国民の皆様にお知らせするよう努めています。

また、研究者や技術者が自らの研究開発成果を発信する短編動画「Project JAEA」の配信や原子力機構のさまざまな研究開発の取組を分かりやすく紹介する広報誌「未来へげんき」を発行しています。加えて、見応えのある写真を中心としたWeb版広報誌「graph JAEA」等をホームページに掲載するとともに、活動内容をソーシャル・ネットワーキング・サービス(SNS：公式Twitterアカウント／@JAEA_japan)で紹介することで、広く情報発信を行っています。



広報誌「未来へげんき」 Web版広報誌「graph JAEA」

情報公開

情報公開請求に対しては、情報公開法の定めに基づき、迅速かつ適切に対応するとともに、外部有識者からなる「情報公開委員会」を開催し、情報公開制度の適正な運用を検証する等、客観性・透明性の確保に努めています。

対話活動や施設公開

原子力機構は、研究開発拠点の立地地域を中心に、事業計画や研究開発の成果等について説明し、意見を伺う直接対話活動を実施しています。また、研究開発活動を直接見て、知っていただくため、拠点の施設を公開し、研究者の話を聞く機会を設けています。

サイエンスカフェ

研究者・技術者と一般の方々気軽に科学について直接語り合える相互コミュニケーションの場として、サイエンスカフェを定期的に開催しています。



サイエンスカフェ

イベント出展

原子力機構は、外部展示イベントへの出展を積極的に行っています。毎年、夏に開催される「青少年のための科学の祭典」では、小中学生を対象とした科学の実験教室を行っており、これまでミネラルウォーターの水質調査や、霧箱を使用した身近な放射線の観察等を実施しました。アジア最大級の分析・科学機器専門展示会イベント「JASIS2018」では、高感度ガス分析装置のデモ展示やプレゼンテーション等を行いました。



「青少年のための科学の祭典」の様子



「JASIS2018」での出展

成果報告会

機構全体の報告として年に1度「原子力機構報告会」を開催しているほか、「福島研究開発部門成果報告会」や「むつ海洋・環境科学シンポジウム」「EReTTSa(エレッサ)シンポジウム」「OECD/NEA主催クリスタリンクラブ会議」「廃止措置技術の展開に係る技術交流会」等、研究拠点や研究テーマごとに報告会やシンポジウムを行っています。



原子力機構報告会

公開講座

高専生や大学生を対象とした「大学等への公開特別講座」や行政機関等に対して放射線原子力防災に関する講師派遣等を行っています。

学校教育支援

各拠点には、原子力を身近に分かりやすく紹介することを目的とする広報チームがあります。東海地区では「スイートポテト」、敦賀地区では「あっぷる」、大洗地区では「シュガーズ」が、それぞれ小中学生、高校生等を対象とした出張授業や実験教室等を行っています。また、スーパーサイエンススクール指定校へ研究者が出張授業を行っています。



出張授業の様子

TOPICS

リスクコミュニケーション活動

原子力機構では、広報活動が情報の受け手のニーズを反映したものとなるように、リスクコミュニケーションの手法を取り入れています。リスクコミュニケーションとは、対象がもつ利点だけでなく欠点も開示した上で関係者が語り合い、関係者間の信頼構築を図るものです。「情報公開」「双方向」「共考」という3つの段階に分けられ、第3段階の「共考」に取り組んでいるものは、東海地区で行っている「地域住民懇談会」、人形峠環境技術センターでの「ウランと環境研究懇話会」や敦賀地区での「地域モニター制度」ですが、2018年度からは、広報部と安全・核セキュリティ統括部とで連携し、これらの拠点訪問を行い、状況把握や課題共有を図り、更なる改善に向けての意見交換を実施しました。



ウランと環境研究懇話会



さいくろミーティング

